〔千葉医学　72：129～131，1996〕

〔原著〕　網膜色素変性症患者におけるYG性格検査

五十嵐　祥　了　　安　達　惠美子

（1996年1月24日受付，1996年1月26日受理）

要　旨

網膜色素変性症（RP）患者へのきめ細かい診療を行うため，その心理状態や性格傾向を調査した。千葉大眼科を受診し調査協力の得られた38名のRP患者に対しYG性格検査を行い，その結果を正常者20名と比較し統計的に検討した。パーソナリティ特性ではRP患者は正常者に比べ，O（客観性欠如），T（思考的外向），S（社交的外向）で有意に高かった。プロフィール分類では全体の傾向に有意差はみられないものの，全般に安定性の高い分布傾向であった。RP患者の性格は正常対照と比べて空想的で細かいことにこだわらず比較的社交的な特徴を持ち，心理面でも安定傾向が強いといえる。

Key words：YG personality test, questionnaire, personality characteristics, profile distribution, fakability

略語一覧：RP＝網膜色素変性症，YG性格検査＝矢田部・ギルフォード性格検査

Ⅰ．緒　言

網膜色素変性症は慢性進行性の予後不良な疾患であるため長期間にわたって患者をケアしていく必要がある。患者へのきめ細かい診療を実現するために患者の心理状態を把握し性格傾向を知ることは重要であり，また患者をとりまく環境や病状の進行が性格傾向にどのような影響を与えているかを検証することは有意義であると考えられる。今回我々は矢田部ギルフォード（YG）性格検査を用いて性格調査を行い若干の知見を得たのでここに報告する。

Ⅱ．実験方法

千葉大学眼科外来を受診した患者のうち，調査意図に協力承諾が得られた38名にYG検査［1, 2］を施行した。視力不良の患者に対しては医師が直接質問内容を読み上げ回答をチェックした。こうして得られた38名の回答について解析を行った。解析方法はまず，各パーソナリティ特性（尺度）ごとに平均値を出し，加藤［3］の示した眼科的正常者との間で有意差があるかを調べた。次に，各患者のプロフィール分類（A～E）を行い，(1)性別，(2)年齢，(3)職業の有無，(4)網膜色素変性症（RP）の病型，(5)矯正視力，(6)中心視野の有無，のそれぞれの因子について性格傾向の分布に影響があるかどうかを検討した。

Ⅲ．結　果

回収された38名の内訳は男性19名，女性19名で年齢は29～78歳，平均50.3±10.7歳であった。

(1)　パーソナリティ特性（尺度）：（表1）正常対照との比較では有意水準5％でO，有意水準1％でTとSにおいて有意差がみられた。また統計学的には有意差はないものの平均値の単純な比較ではRP患者は正常者をC，N，Co，Aで上回

千葉大学医学部眼科学講座
Yoshinori IGARASHI and Emiko ADACHI-USAMI：YG Personality Test in RP Patients.
Department of Ophthalmology, School of Medicine, Chiba University, Chiba 260.
Received January 24, 1996, Accepted January 26, 1996

表1．正常対照とRP患者のパーソナリティ特性
（平均 ± 標準偏差）

	正常対照(20例)	RP患者(38例)
D ：抑鬱性	1.8 ± 0.68	2.0 ± 0.95
C ：回帰性	2.3 ± 0.78	2.7 ± 0.91
I ：劣等感	2.5 ± 0.50	2.6 ± 0.68
N ：神経質	2.2 ± 0.60	2.5 ± 0.73
O ：客観性欠如 *	2.0 ± 0.77	2.5 ± 0.89
Co：協調性欠如	2.5 ± 0.97	2.8 ± 1.08
Ag：愛想の悪さ	2.7 ± 0.91	2.6 ± 1.08
G ：一般的活動性	3.5 ± 0.87	3.1 ± 0.80
R ：のんきさ	3.0 ± 0.84	3.2 ± 0.86
T ：思考的外向 **	2.2 ± 0.87	3.8 ± 0.95
A ：支配性	2.8 ± 0.60	3.2 ± 0.89
S ：社会的外向 **	2.6 ± 0.83	3.2 ± 0.78

＊P＜0.05，＊＊P＜0.01

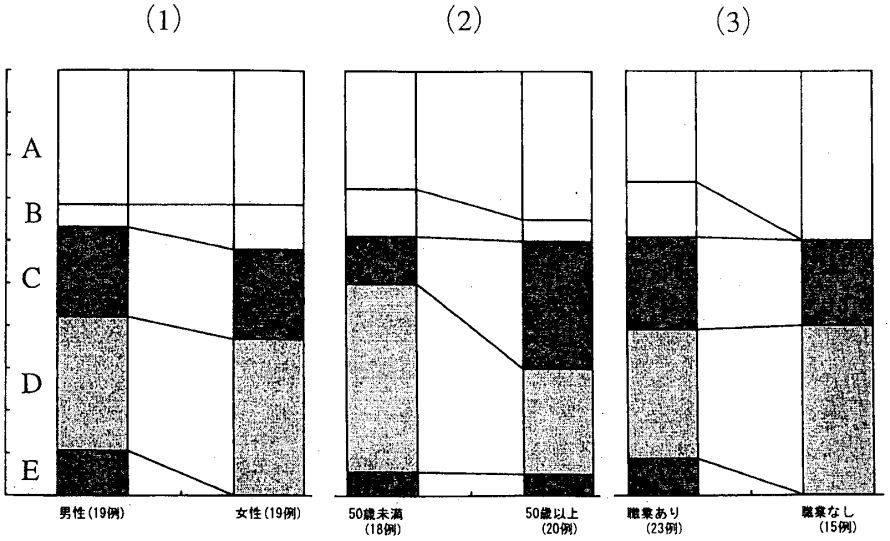

図1．
(1) 性別　(2) 年齢　(3) 職業の有無によるプロフィール分類の比較
A：平均型
B：不安定積極型－非行型
C：安定消極型－鎮静型
D：安定積極型－適応者型
E：不安定消極型－ノイローゼ型

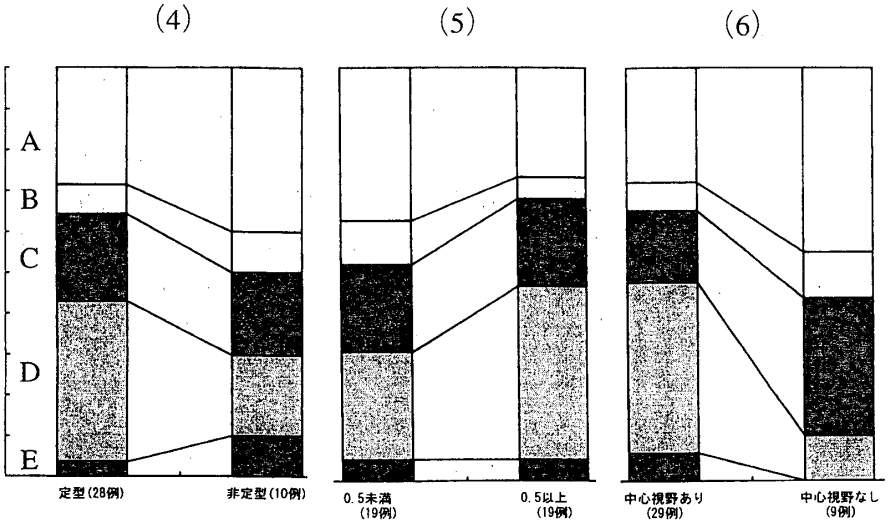

図2．
(4) RPの病型　(5) 矯正視力　(6) 中心視野の有無によるプロフィール分類の比較
A：平均型
B：不安定積極型－非行型
C：安定消極型－鎮静型
D：安定積極型－適応者型
E：不安定消極型－ノイローゼ型

り，Gで下回った。

(2) プロフィール分類：A類（平均型），B類（不安定積極型－非行型），C類（安定消極型－鎮静型），D類（安定積極型－適応者型），E類（不安定消極型－ノイローゼ型）の5タイプのプロフィールに従って前述の各因子ごとにRP患者の性格分布を調べた（図1，2）。各因子について統計的分析を行ったが，有意差は認められなかった。さらにこれらと江口［4］の示した産業人約3,000人を基にした一般人のプロフィール出現率との比較を試みたがやはり有意差はみられなかった。しかし，A～Eの単純出現率ではすべての因子においてCやDのような心理的に安定した類型が約半数を占め，BやEは比較的少数にとどまった。また最も理想的とされるDは視力や中心視野がよく，また年齢が若いものほど出現率が高かった。

Ⅳ. 考　察

(1) パーソナリティ特性（尺度）の比較によりRP患者の性格は正常者よりも空想的で細かいことにこだわらず比較的社交的な傾向を持っていることが分かった。その反面，感情的で現状に懸念や不満を持ち自己中心的な不安定な一面も持っていることがうかがえる。また，劣等感，抑うつ性については有意差はなく本症が重篤な遺伝性疾患ということを考えると意外な結果であった。

(2) プロフィール分類の比較では，各因子は性格分布パターンには大きな相違を与えていなかった。単純な出現率の比較ではCやDが約半数を占めており，疫学的条件や病状の程度にかかわらず心理状態は比較的安定していることを示している。中でもDの出現率に着目すると，症状の悪化が患者の心理状態を消極化させる傾向にあることが分かった。一方，BやEといった精神的ケアを要すると考えられるタイプが全般的に少ないのは好ましい結果であった。

(3) 今回の調査は無作為に選択されたRP患者に対して行ったものではなくあくまでも協力が得られた場合に限った結果のため，それがRP患者全般の性格傾向を単純に反映していると断言はできない。また検査自体は簡単だが30～40分の時間を要しその特殊性ゆえ協力が得られにくく症例数も少数にとどまり，これが統計的に有意差が出にくくなった理由のひとつと考えられた。YG性格検査は質問紙法であるため自分をよく見せかけようとする「反応歪曲（fakability）」などの影響を少なからず受けており今回の結果解釈にあたっては十分な注意が必要であると思われた。

SUMMARY

We studied psychological state and personality traits of RP patients to have fine contact with them at clinic. We performed YG personality test in 38 RP patients who consulted Department of Ophthalmology, Chiba University Hospital. Informed consent was obtained from all participants. We statistically analized the results comparing with 20 normal volunteers who served as controls. RP patients showed significantly higher scores on O (lack of objectivity), T (thinking extraversion), and S (social extraversion) in terms of personality characteristics and relatively higher stabilized character in terms of profile distributions than the normal volunteers. It was thus concluded that personalities of RP patients are relatively more well-stabilized in their character, and have more visionary, tolerant, and relatively sociable character traits than the normal volunteers.

文　献

1) 辻岡美延：YG性格検査実施手引，辻岡美延編，第1版，pp. 1-17，日本・心理テスト研究所，大阪，1988.
2) 渡部洋，喜岡恵子，和田さゆり，藤井義久，井上俊哉，常田秀子，松井仁：心理検査法入門，渡部洋編，第2版，pp. 121-133，福村出版，東京，1994.
3) 加藤昌義：緑内障患者の性格検査成績，日眼会誌 69：1418-1435，1965.
4) 江口恒男：性格診断マニュアル，江口恒夫編，第1版，pp. 103-104，（株）テクノ，東京，1976.